

総合社会福祉研究所「釜ヶ崎短期留学 2019 年」(兼 第 216 回まちづくりひろば)のご案内

～『福祉のひろば』発刊 40 周年記念スペシャル～

社会課題先端地域、釜ヶ崎(あいりん地域)でいま起きている大きな変化と取組みからとことん学ぶ。

▽釜ヶ崎から市民向けの、どこよりも早く・深く・まとめて学べる、まちづくり現場報告&トークの集い

▽ありむら潜さん(漫画カマヤんの作者)コーディネートによる第一線の実践者・研究者たちが講師陣

【日時】 2019年3月15日(金) 10:00~16:00

【呼びかけ対象者】 釜ヶ崎(あいりん地域)について関心を持ち、その行方を見守っている一般市民・学生・研究者・福祉関係者等

【定員】 40人。定員になり次第締め切り【参加費】 無料 住所、氏名、年齢、職業を記入して下記に申し込んでください

【申込み】 総合社会福祉研究所 (hp://www.sosyaken.jp, Mail: mail@sosyaken.jp) TEL06-6779-4894 fax06-6779-4895

【会場】 太子福祉館(「大阪市立大学西成プラザ」として知られている会場の本来呼称)

大阪市西成区太子 1-4-2 太子中央ビル 3 階 (最寄り駅: 地下鉄動物園駅、JR新今宮、南海新今宮)

【共催】 総合社会福祉研究所、釜ヶ崎のまち再生フォーラム 【後援】 有限会社福祉のひろば社

【企画趣旨】

過去半世紀にわたって関西圏の日雇い労働者たちの求職活動の舞台であり、日本労働遺産とでも呼ぶべき「あいりん総合センター」が耐震強化による建て替えのためにこの3月末に閉鎖されます。これを機に、この地域の取組みから学べることをしっかり受け止めておくことは社会の責任でもあると考え、企画したものです。釜ヶ崎にはたくさんの社会的課題が凝縮し、その克服のための実践が先端的に繰り広げられて、学ぶべきものがあふれているからです。たとえば、日本列島総釜ヶ崎化(非正規雇用や無縁社会の全国化)の警鐘、ホームレス支援をまちづくりと組み合わせる方式や地域トータルケア・ネットワークの先見性、「半就労・半福祉」をはじめとする生活保護制度活用法の地域的工夫、生活困窮者への支援付き簡易宿所転用型マンション等の実践ノウハウ、地域諸団体や行政が一堂に会して合議によるまちづくりを推進するボトムアップ型の徹底追求、ジェントリフィケーション論とそれに抗するサービス・ハブ概念の対置 etc。そして、この集い自体が当地域への実践的応援となるように、釜ヶ崎のまち再生フォーラムがまちづくりの推進軸として20年間も開催してきている「まちづくりひろば」との共催という形態にしました。当日の報告や質疑は月刊誌『福祉のひろば』に掲載されます。

【内容】

以下の講師のみなさんはほとんど、あいりん地域まちづくり会議の有識者委員や地域委員として、状況改善に直接参画しています。

<午前> 10:00~

1) 基調解説「釜ヶ崎は何がどう変わり、何が継承されるか?なぜ、どのようにしてそうなったか?何が課題か

ありむら潜さん(釜ヶ崎のまち再生フォーラム事務局長)氏は釜ヶ崎で働き、活動し、漫画やコラム発信を続けること44年。まずはフィールド・ワークに代わって、スライドで時と空間を「まち歩き」。釜ヶ崎の過去・現在・未来を、ホームレスや生活困窮者支援の住民主導型まちづくりの観点から、応援団のみなさんにもわかりやすく提示します。

2) 専門分野ごとの解説 11:00~

▽社会福祉研究者から

白波瀬達也さん(桃山学院大学社会学部准教授)

「サービス・ハブ西成型の希求による社会的包摂力のアップデートをめざして」*好評の『地域と貧困』(中公新書)発刊後、有識者委員に。まちづくり実践のど真ん中に飛び込んでみて得た社会福祉視点からの最新の知見を語ってもらいます。

▽日雇い労働市場の研究者から

水野阿修羅さん(日本寄せ場学会運営委員)

「これほどまでに進行している日雇い労働市場の構造的変容」元鉄筋工でもあり、「釜ヶ崎の歩く生き字引」とも言われる氏が精力的に踏査した全国飯場(建設作業員宿舎)調査結果。そこから見えてきたのは広くニッポンの社会構造そのものの変化。あなたはきっと驚くでしょう。

(昼食&休憩 45分~60分程度)

※休憩時や終了後 地域をまわられるのも良いかと思えます

<午後> 13:00~

▽地域に生きる住民・町会・自営業者の観点から

西口宗宏さん(地域内の第6町会長を14年間歴任。簡易宿所組合理事)

「不信と断絶の街の歴史を、労働者とは異なる立場からはどう克服しようとしているか」自らの簡易宿所を釜ヶ崎的知恵で生活困窮者支援マンションに転換し(サポータビハウス)、単身高齢者等の支援のあり方を熟知。さらに外国人女性中期滞在者向けシェアハウスも開設するなど、地域ハウジング資源の多様化を推進中。弱者支援感覚の鋭さには誰もが脱帽。

▽子ども支援分野から

山田文乃さん(いまみや小中一貫校指導教諭)

「ネガティブな地域イメージをもつ児童と作り上げた地域学習はこうして大きな前進を見せた」地元校の児童たちが8ヶ月間にわたる地域学習の成果として発表した「私たちの西成まちづくりプロジェクト」の提案8本は大人たちにポジティブなショックを与えました。その牽引者として経験を語ってもらいます。現在は休職して、外国にルーツをもつ子どもの支援事業推進中。荘保共子さんのお話とのセットで学んでいただきたい。

荘保共子さん(NPO法人こどもの里理事長)

「子どもたちが地域から消える寸前まで行き、再び子どもたちの声が聞こえる街をめざす取組みの中で人々に伝えたいこと」「大都市部の限界集落」とも呼ばれたりする中で子どもたちはやはり希望です。子ども支援は地域再生のうえでどんな役割があるのか。どんなことができるのか。ドキュメンタリー映画「里にきたらええやん」の静かなヒットで、全国から視察や講演依頼が殺到する日々。

<休憩> この間に、質問票の回収

3) シンポジウム&質疑応答 14:00~16:00

「社会課題先端地域=釜ヶ崎でいま起きている大きな変化と取組みからあなたは何を学ぶか?たくさんの知見を持ち帰ろう」会場参加者の意見や質問も入れて、存分に語り合います。進行役:ありむら潜、シンポジスト:白波瀬達也、水野阿修羅、西口宗宏、山田文乃、荘保共子の各氏

閉会挨拶

以上__